

ねじりはちまき

5月 皐月<sup>きつき</sup> 立夏 小満の月になりました。

5月2日八十八夜です。3日憲法記念日、4日みどりの日、5日端午の節句と立夏、12日母の日、20日小満となっております。八十八夜は雑節で立春から数えて88日目にあたる日の事を言います。この日から3日後には立夏を迎える為、昔から夏の準備を始める日とされてきました。

八十八夜は八と言う末広がりの方が重なることから縁起が良いとされ、この日に摘んだお茶を飲むと長生きできるとの言い伝えがあります。また、農家には八と八を重ねると米と言う字になるので農作業のはじめに良いとされ、縁起担ぎもあって、八十八夜と88歳の人（米寿の人）を大切にしてお祝いをする風習があります。4月の色々な行事と花見の疲れが出る頃です。どうぞ、ご自愛ください。

幸田常一

\*\*\*\*\*

<会社近況>

花粉や黄砂が飛来することが増えてきましたね。地球温暖化の影響が、生活のいろいろな場面に出てきています。気温の高い日もありますので体調管理に気をつけながら作業を進めているところです。ただいま、郡山市の住宅新築工事と店舗新築工事をお世話になっております。

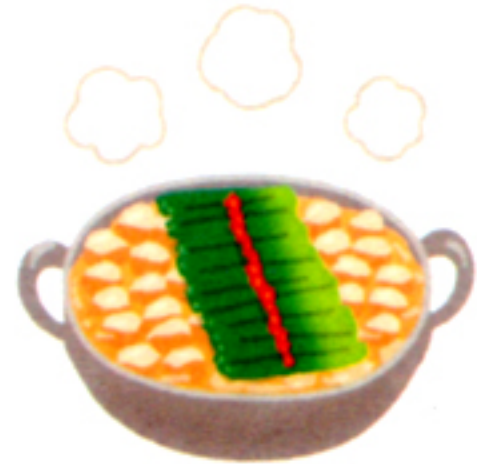
<5月のお手入れ> お風呂周りのカビ掃除

浴室の汚れをきれいにすると良く乾く時期です。水垢、ピンクぬめり、カビ、石鹸のかたまり、皮脂汚れなどの種類の違う汚れが混在しています。それぞれの汚れに合わせて、洗剤を変えたり重曹や、塩素系の洗剤、中性洗剤と使い分けしましょう。水垢など軽い汚れは中性洗剤、カビは塩素系、石鹸の汚れにはクエン酸が効くそうです。換気をしながら、洗剤どおしが混ざらないように注意が必要です。風の爽やかな時期ですので梅雨前にぜひ取り掛かりたいものです。

\*\*\*\*\*

<5月の旬> ニラ

春の旬のお野菜である「ニラ」がおいしい季節です。ニラは冷え性や整腸作用もあるそうです。他には血行を良くしたり、体を温める作用もあり風邪予防にも効果的だそうです。ニラを使ったお料理だと、餃子、ニラ玉、チヂミなどが一般的です。スープに加えても美味しいですし、チャーハンにしても美味しいですね。ぜひ旬のニラを食卓に加えてみて下さい。



\*\*\*\*\*

<5月連休のお知らせ>

5月3日(金)~5月6日(月)までお休みさせていただきます。

なお、5月7日(火)は通常どおり営業致します。ご不便お掛け致しますが宜しくお願い致します。

\*\*\*\*\*

令和6年5月5日発行

有限会社 幸田建設

<発行責任者>幸田 久美

〒969-1204 本宮市糠沢字八幡 1-1

電話 0243-44-3816

<後記>先日、大玉のあだたらの里に

行ってきました。鯉のぼりが数十

匹泳いでおり、桜も満開だったので

日本らしい美しい光景だなあと、

しみじみ感じました。(ほしの)

古事記神話についてⅡ

引き続き古事記の神話について紹介したい。紙面の関係もあるので概要に止めるが、前回の「国生み」から今回は「天孫ニニギノミコトの降臨」まで辿ればと思う。古事記では「イザナギノミコト」から「アマテラスオオミカ」そして「オオクニヌシノカミの国譲り」さらに「天孫ニニギノミコトの降臨」へと皇統系譜について語り継いでいくのを特にポイントと考えていたのではないかな。では、その展開を続けて見ていきたい。

1. 三貴神の誕生

イザナミノミコトは「火の神」を生んで大火傷を負って床に臥せったが、その後死んで死後の世界即ち黄泉（よみ）の国へ移る。嘆き悲しんだイザナギノミコトはイザナミノミコトに会いたくて、黄泉の国を訪れる。訪問の旨を告げるが、待てどもなかなか現れない。そこでこらえきれずにイザナギノミコトは扉を開けて中に入る。そこには「ウジが湧いている」イザナミノミコトの姿があった。恥ずかしい姿を見られたイザナミノミコトは怒って、配下の者にイザナギノミコトを追わせる。追撃の途中様々なドラマが展開するが、イザナミノミコトはついに逃げおおせる。逃げおおせたニニギノミコトは、黄泉の国の穢れに触れた身を浄めんとして禊（みそぎ）払いをするのである。禊払いの結果、アマテラスオオミカ・ツキヨミノカミ・スサノオノミコトの三貴神が誕生する。アマテラスオオミカは高天原を治めるよう命じられ、ツキヨミノカミは夜之食国（夜の世界）を治めるよう命じられ、スサノオノミコトは海原を治めるよう命じられる。ニニギノミコトがアマテラスオオミカに「高天原」を治めるよう命じたというのは、「高天原の天つ神」を祀れということになるので、「国生み」をした自分の後継者として定めたということになる。

2. 天の石屋戸（いわと）隠れと石屋戸開き

海原を治めるよう命じられたスサノオノミコトであるが、黄泉の国の母君イザナミノミコトに会いたい一念で、命にも従わず泣き続けるのであった。そこでイザナギノミコトはスサノオノミコトをそこから追放してしまう。追放されたスサノオノミコトは、母君に会いに行く前に高天原のアマテラスオオミカに別れの挨拶に出向く。アマテラスオオミカは疑心を持ち、軍装備して迎えるが、スサノオノミコトは「ウケヒ（誓い）」により邪心がないことを証明する。それにより慢心に陥ったスサノオノミコトは、悪行を重ねる。当初アマテラスオオミカはそれら悪行も良い方に受け止めていたが、馬の皮を投げ込んで織女が死なす暴挙に及んだことにより、天の石屋戸に籠ってしっかり戸を閉めてしまった。陽の大神であるアマテラスオオミカが籠ったことにより、天上界も地上界も暗闇に覆われてしまったし、災いも起こった。そこで八百万の神々が相談し、オモイカネノカミに種々の方策を考案させ、そして天の岩屋戸から出てくるよう祝詞を挙げる。と同時に石屋戸の脇にアメノタジカラオノカミを立たせ、石屋戸の前でアメノウズメノミコトが神楽を踊った。その踊る様が神がかりで笑いを誘い、八百万の神々の笑いが高天原を揺るがすほどであった。その笑い声を聴いてアマテラスオオミカは不思議に思い、石屋戸を細目に開け、「真っ暗なはずなのに、なぜ神楽を舞ったり、笑ったりしているのか」と尋ねた。するとアメノウズメノミコトが「あなた様よりもっと尊い神様がここにおられるので、悦んで笑ったり、踊ったりしているのです」と答えた。そう答えているうちに控えのミコトが鏡を差し出してアマテラスオオミカに見せた。そこに写る尊い神の顔を見てますます不審に思ったアマテラスオオミカは、少しだけ開いた戸の中から出て様子を見ようとした。その時である。戸の脇にいたアメノタジカラオノカミは早速アマテラスオオミカの手を取って石屋戸の外へ引き出したのであった。そこで、天上界も地上界も前のように照り輝いたのであった。そして悪行を重ねたスサノオノミコトは、高天原からも追放されてしまうのである。

3. スサノオノミコトのその後

追放されたスサノオノミコトは、その後食べ物を司るオオゲツヒメノカミに食物を無心した。そこでオオゲツヒメノカミは様々な料理を作って差し出すが、スサノオノミコトは汚らしいものを出したのではないかと怪しんで、オオゲツヒメノカミを殺してしまう。すると殺されたオオゲツヒメノカミの頭に蚕が、目からは稲種が、耳からは粟が、鼻からは小豆が、陰処からは麦が、尻からは大豆が生まれた。いわゆる蚕と5穀の誕生である。それからスサノオノミコトは出雲（現島根県）へ降り立ち、そこで懇願されてヤマタノオロチ（八つの頭を持つ）を退治し、出雲を永住の地と定めた。その地でサシクニワカヒメと契りを結んで生まれたのがオオクニヌシノカミである。

#### 4. オオクニヌシノカミの国づくりと国譲り

オオクニヌシノカミは「因幡の白兔」の神話に見られるように八十神とは違った心構えを持っていた。他人の荷物の入った大きな袋を背負い、不憫なウサギを哀れと思い助けるのだ。また、オオクニヌシノカミは八十神から2度にわたり迫害を受けるが、その都度蘇りを果たし、成長していく。そのようなオオクニヌシノカミはやがてスサノオノミコトにも認められ、出雲の国の大王となり、イザナミミコトの死後中断していた国づくりに励むことになる。国づくりのコンビとしてはスクナビコナノカミやオオモノヌシノカミがいる。国づくりとしては、人の生活に欠かせない農耕・衣食住の安定であった。その国づくりが進んで行った時、アマテラスオオミカはその進み具合を御子であるアメノオシホミミノミコトに見てくるよう命じる。その報告を受けて、アマテラスオオミカはオオクニヌシノカミに「国譲り」をするよう使者を派遣することにしたのである。ところが、第一の使者アメノハヒノミコト、第二の使者アメノワカヒコいずれもその役目を果たさなかった。そこで第三の使者として適任のタケミカヅチノオノカミを選び、派遣した。タケミカヅチノオノカミはアマテラスオオミカの「我が御子に国譲りすべし」とのお言葉をオオクニヌシノカミに伝える。曲折はあるが、オオクニヌシノカミは子のコトシロヌシノカミとタケミナカノカミと共に「アマテラスオオミカの仰せに従う」ことになり、「国譲り」は成就する。

#### 5. 天孫ニニギノミコトの降臨

オオクニヌシノカミの国譲りを見定めたアマテラスオオミカは、御子であるアメノオシホミミノミコトに「中つ国」に降りることを命じる。しかしアメノオシホミミノミコトは我が御子のニニギノミコトを差し向けるよう進言する。アマテラスオオミカはその進言を受け入れてニニギノミコトを差し向けることにする。ニニギノミコトはアマテラスオオミカの孫にあたるので「天孫」と尊称がつく。さて、ニニギノミコトが「高天原」から「中つ国」へ降臨することになるが、その際アマテラスオオミカは、天の石屋戸籠りからの再生（戸開き）の時活躍した五柱の神を供奉させると共に、ニニギノミコトに八尺の瓊勾玉（ヤサカノマガタマ）・鏡・草薙の剣（クサナギノツルギ）を授けた。この三つの品は今に伝わる、皇位継承の証である「三種の神器」である。特に「鏡」については、「鏡は私の魂だ。私の傍に仕えるように身近に祀れよ」と言葉を添えている。こうしてニニギノミコトは無事「葦原の中つ国」に降り立つ。降り立ったニニギノミコトは、笠沙の御前でコノハナノサクヤビメと出会い、契りを交わして御子をもうける。その御子の一人がホオリノミコトである。このホオリノミコトが「海神（わたつみ）の宮」即ち「龍宮」で共に過ごしたトヨタマビメとの間にもうけた御子がカムヤマトイワレビコノミコトである。このカムヤマトイワレビコノミコトが後に高千穂から東征して初代天皇として即位する神武天皇である。そして今日まで皇統連綿として126代続いているという次第である。これで「古事記神話」は終わりとしたい。大部省略したが、いかがだったでしょうか。

## 吾妻連峰 残雪の西大巔

(百：日本百名山、◎：日本二百名山、○：日本三百名山、カッコ内の数字は  
【今回登った山】 標高)

西大巔 (にしだいてん、1982m、吾妻連峰最高峰 西吾妻山 (百 2035m) の西側にあるピーク)

4月13日(土)

県南に住む山友NさんとNさんの友人(同級生)Sさん(初対面)と三人で西大巔、できれば西吾妻山に行くことになった。二人の女性との山行も珍しい。

グランデコスキー場のゴンドラリフトの運行時刻を逆算して、道の駅猪苗代に7時30分集合。Sさんは冬眠明けの初めての山行とのこと、自分は西大巔・西吾妻は久しぶりで、残雪期は初めて。

高速の猪苗代IC手前のトンネルを出たところから、西方の雲の上に西大巔と西吾妻がきれいに見えていた。猪苗代の町は霧がかかっていたが湿度は高くなく、これから晴れてくる予感がした。グランデコスキー場8時過ぎ着。ボードやスキーの客も結構いた。

ゴンドラリフトの下はところどころ地肌が露出している。リフトの営業があと1週間、21日(日)までということも頷ける。

リフト終点山頂駅(標高1390m)、8:45出発。踏み跡もあり、右斜めに登って行く。夏道の感覚がよみがえる。ゲレンデの左側を登って行く(写真下左)。



振り返ると裏磐梯の絶景が目に飛び込んでくる。歓声を上げ、しばし休憩(写真左)。



休止中の第4クワッドリフト終着点（駅）の周辺は地肌が出ていてスキーはできない（写真左）。

ここから右に樹林の中に入って行く。踏み跡がたくさんある。



時々振り返る。厳寒時のリトルモンスターとなるアオモリトドマツ（写真左）。中央奥は檜原湖か？

西大巔まで1時間ほど手前の1843mピークの登り（写真下左）。



ピークを過ぎると斜めに下るスキーのトレースがあり、西吾妻への近道ではないかと思い右下がりの斜面を緩やかに登って行く。滑落の恐れがあったが3人とも何とか無事に渡り切る。

考えは甘く、西吾妻に行くルートではなかった。西大巔まではさらに距離があった。

丁度11時、西大巔山頂着。数グループ10人くらいがいて写真を撮ったり休んでいた。西吾妻山へのトレースが見つからず、ほとんどの人はグランデコに引き返すようだ。仙台に留学していたという中国出身の若者グループの一人が流ちょうな日本語で話しかけてきて、「あれが月山ですか？」などと話しかけてきた。

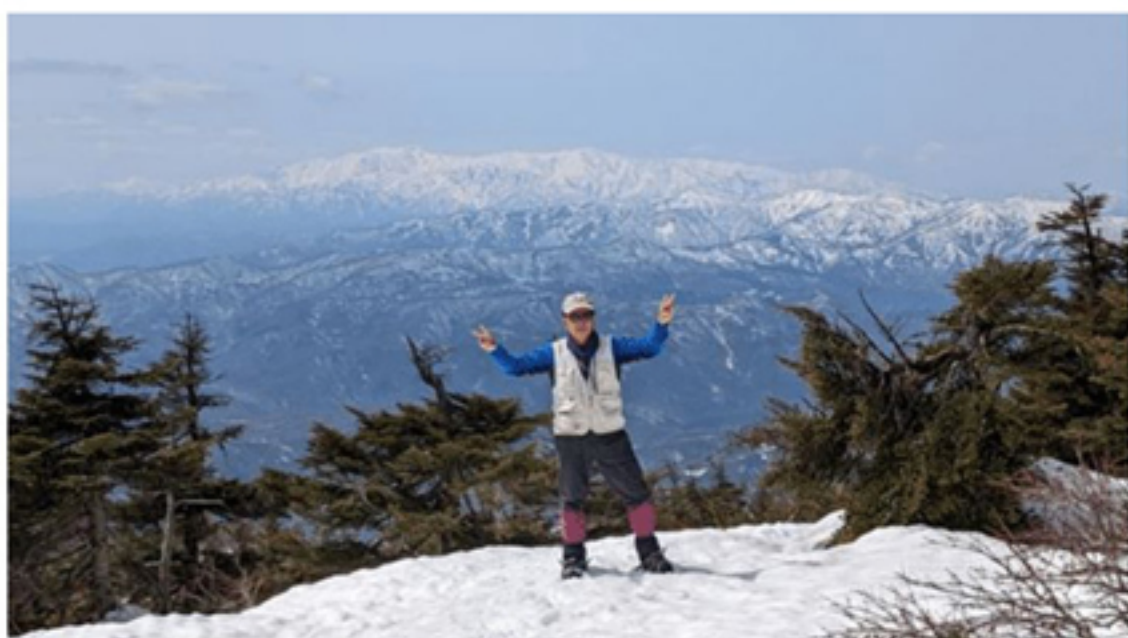
自分たちも西吾妻山は断念し、ゆっくりすることにした。たまにこういう山行もあっても良いと思った。

西吾妻山（写真上）。



西吾妻を背景に記念写真（写真左）

山頂には雪がない。

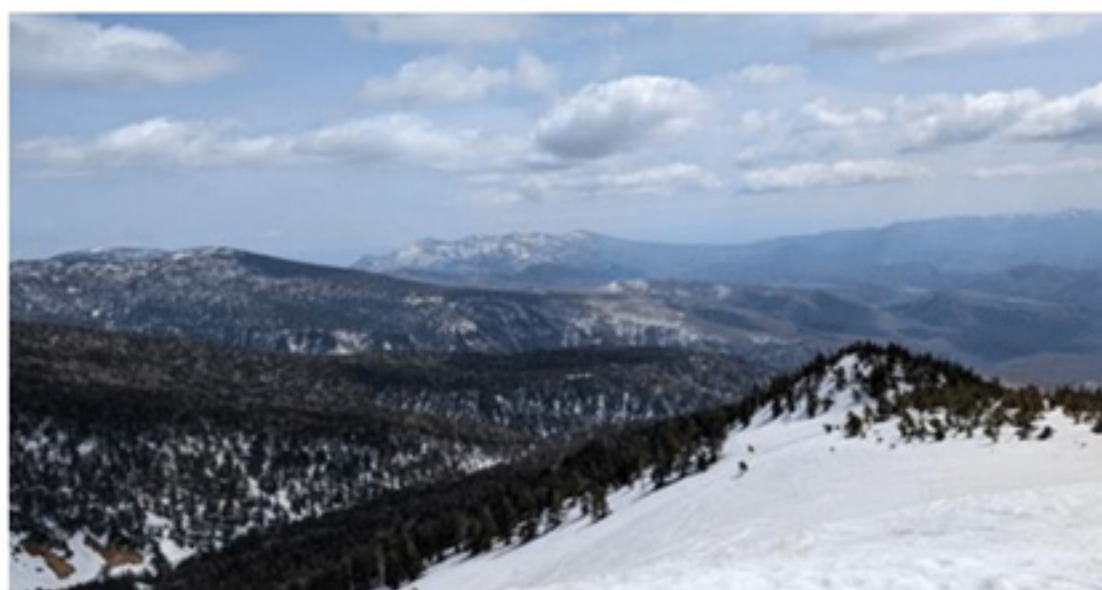


西方の飯豊連峰をバックに（写真左）。

丁度1年前、岐阜県白川郷の猿ヶ番場山（○1875m）から見た白山（百2702m）の雄姿を思い出した。

北方山形県方向にも薄っすらと山並みが見

えたが朝日連峰や月山、蔵王連峰だろう。写真には写らない。



東には安達太良連峰  
(写真左、中央左奥)

やはり西大巓からの眺めは裏磐梯の絶景が最高。

中央の磐梯山を挟んで左肩に猪苗代湖、右に猫魔ヶ岳、その麓に檜原湖。磐梯山の下部には小野川湖、猪苗代湖の山を挟んだ手前下部に秋元湖が横たわっている (写真左)。



13時15分下山開始。  
山頂に2時間以上いた

ことになる。

右の写真は右手で何かをかざしています。実は下山中に何度か踏み抜きをした際、片方のアイゼンを紛失してしまったのです。30年以上使ったものでベルトも金具の当たるところは擦り切れ始めたが安心して使い込んできたものでした。山頂駅で、いざ足から外そうとしたときに初めて着いていないことに気が付いたというおろかな顛末。



14:40 山麓マウンテンセンター着。

ゆったり、まったりの楽しい山行になったNさんとSさんに感謝し、裏磐梯の絶景を楽しんだ西大巓山行を無事終える。

道の駅まで戻り、またいつかご一緒しましょうと言ってお別れする。

気が緩んだ下山中の最後のところで何かをやらかす、危ない！

令和6年5月 NO126 アンチ・エイジング 山旅遊人